



新入生へのメッセージ 看護大生として



新入生の皆さん、入学から2ヶ月が経ちましたね。1人暮らしや大学の学校生活にも慣れてきたころだと思います。これから4年間一緒にたくさんのこととともに経験していく同級生とは仲良くなりましたか？頼りになる先輩とは出会えましたか？この大学で自分にかかわる人すべてが、時に自分の背中を押してくれ、同じ夢を持つ者同士、切磋琢磨し合えるかけがえのない存在となるとと思います。本大学は単科大学で規模は小さな大学ですが、その分同級生とのつながり、先輩後輩とのつながりがとても強いのがわかったと思います。

わからないこと、困ったことがあったらお互いに助け合い、遠慮なく先輩に相談してください。先生方も個別に対応くださり、とても頼りになる存在です。授業のことだけでなく、進路や国試などの不安や悩みも1人で考え込まず、オフィスアワーを活用して相談してみましよう。

1年生はこれから少しずつ試験が始まって、夏休みが来て、ふれあい実習がありますね。ふれあい実習では地域の方々たくさん触れ、考え、経験してきてください。秋にある桜蓮祭という

学校祭も楽しみにしててください。生徒主体となって行い、毎年たくさんの地域の方々に来ていただいています。サークルごとに催し物をするので、サークルに入っている人も入っていない人も、是非参加して一緒に桜蓮祭を盛り上げていきましょう。前期は座学が多く、理論や概論、基礎科目が多いので「看護師になるための勉強」という意識をあまり感じる事ができないかもしれませんが、1年次のこの理論や概論、基礎科目がこれから2年、3年次で大切だと感じます。さらに、後期には演習が始まり、病院実習に行くことで自分が看護職者になるという意識が生まれてくるはずですよ。実習ではたくさんのことを見て学び、自分の理想の看護職者象をイメージしてみてください。

勉強や演習、実習で忙しい看護学生ですが、このように、その中で同じ夢を志す仲間と協力しながら、学生である今でしかできないことにチャレンジすることができます。1年生は空きコマが多くある分、自分のやりたいことや興味のあることにチャレンジしていける年です。看護を学びながら自分のやりたいこと、興味のあることにどんどんチャレンジしていきましょう。そして看護大生として誇りを持ち、大学生活をより良いものにしていきましょう。

もくじ

- 1 新入生へのメッセージ
- 2 学外オリエンテーション
- 3 大学院に入学して
卒業式・学位授与式
卒業研究発表会、学位論文発表会
- 4 ホア先生講演会

- リレーマラソン参加
実習懇談会・研修会
- 5 新副理事長紹介
新教員紹介
- 6 新教員紹介
事務局紹介

- 7 卒業生は今
科研費獲得状況
- 8 オープンキャンパスについて
いきいきサロン
編集後記

学外 オリエン テーション

4月10日(金)、11日(土)の2日間をかけて、新入生学外オリエンテーションを行いました。長野県黒姫高原にて宿泊様々な催しをとおして、新入生は友人をつくる機会になったようです。また、2日目には、先輩と交流する場もあり、大学生活についてのアドバイスを受け、新生活への不安も少し解消できたようです。今回は、学外オリエンテーションに参加した新入生と、3年生、4年生からのメッセージをお伝えします。

新入生



入学してまもなく、黒姫で学外オリエンテーションがありました。1日目の最初は、学校でインディアカをしました。男女関係なくチームを作り、協力したり励まし合うことができ、とても楽しかったです。その後宿に移動し、先生方も含めて他己紹介をしたり、部屋ごとにオリジナルの帽子を作ったりしました。帽子を作る際も、メンバー全員で話し合い、全員が納得のできる帽子を作ることができ、とても有意義だった

と思います。夜は、インディアカなどで仲良くなった友達たちとゲームをして遊び、とてもいい思い出になりました。2日目は、先輩方から学校生活の事についていろいろ教えていただきました。不安に感じていた勉強の事や、一人暮らしの事を聞けてとても良かったです。学外オリエンテーションを通して、たくさんの友達や様々な経験をすることができてとても楽しかったです。

在学生

4月初旬に黒姫にて行われた学外オリエンテーションに在校生として参加させていただきました。2年前の期待と不安に胸を膨らませていた頃の自分を思い返し、今年の1年生はどのような子がいるのかなととても楽しみに当日を待ちわびていました。オリエンテーションでは、私たち在校生から、1年生が不安や疑問に思っていると考え、実習、勉強、アルバイト、一人暮らし、サークルについて話させていただいたり、グループに分かれ質問に答えたり、アドバイスをさせていただきました。

今回、入学から現在までを振り返る機会となり、講義や演習、実習で先生方や患者さん、看護師の方々からたくさんのことを学ばせていただいたり、継燈式、桜蓮祭などの学校行事やサークル活動での人との交流や今しかできない経験ができたり、充実した学生生活を送ることができたと感じました。1年生のパワーをたくさんもらい、私自身、後輩に見られても恥ずかしくないよう、これからも勉強はもちろん、学内外での活動にも積極的に参加し、日々励んでいきたいと感じ、とても貴重な経験をさせていただきました。



新入生



4月のまだ入学して間もない時期に1泊2日の学外オリエンテーションがありました。初対面の人達が多い中で1泊2日のオリエンテーションに最初は戸惑いましたがとても楽しく過ごすことができたと思います。

1日目はインディアカをしましたが、これが意外と難しく私のチームは3回で相手のコートに返せただけでも盛り上がっていました。声を掛け合い、互いにフォローしながら試合をしていく中で仲が深まったように感じました。

2日目は先輩方から大学生活について聞きました。先輩方はとても優しく大学生活について教えてください、不安も期待へと変わっていきました。

このオリエンテーションを通して沢山のひとと友情を深められたからこそ、今の大学生活を楽しく過ごすことができていると思います。また、学校生活で辛いことがあっても助け合っていけるとと思います。これから4年間楽しく過ごしていきましょう！よろしく願います!!

在学生

私は、先日1年生学外オリエンテーションに参加させていただきました。オリエンテーションでは1年生が学校生活を迎える上で主に実習ではどのようなことを行うのか、どんな準備をすればよいのかについてお話しさせていただきました。

看護師になる上で病院での実習は非常に大切なものになります。看護師の行う業務はどういうものか実際に患者さんと触れ合うことで感じることができると思います。その実習を有意義なものにするために、今まで習った講義

や技術の復習、心構えが必要だと思います。実習でしか得られないものが多くあると思うので、充実させるためにも疑問を持ったり、分からないことがあったりしたらそのままにせず、教員や看護師さんに相談してみてください。いいアドバイスをしてくれます。さて1年生はこれからいよいよ夢を叶えるための生活が始まります。くじけそうになったり、嫌なこともあったりすることもあると思います。しかし、それを超えればきっと成長した自分が見えてくるはずです。自分の目標に向かって頑張ってください。



大学院に入学して



私は今春、本校の看護学研究科に入学しました。同期生は年齢も経歴も様々です。私は長野県北部の出身ですので、4月当初は時には小雪が舞う中を、最近は何日に日に緑が鮮やかになる中を、高原のドライブを楽しみながら高速通学しています。

私は主に病院に勤務し入院患者の看護に従事してきました。臨床現場では自分の至らなさに苦しいときもありましたがやりがいもありました。現場は様々な課題があります。もっと患者の役に立つシステムはないか、どうすればより良い看護が提供できるのか、などを考えながら日々を送りました。それらの課題を解決する方法や現場に役立つ知識を得たい、と思ったことが志願した動機のひとつです。また、自分が実践してきたことはどのような意味があったのか、を振り返り、私に不足しているものを埋めたい……とも思い、学びの

場を求めて入学しました。

入学後わかったことがいくつかあります。一つは、看護に関して多くの研究が発表されていて、臨床で抱える課題に対する示唆が蓄積されていることです。これらの知識を課題の解決のために活用するべし、と思います。二つ目は、共に学ぶというとき、年齢や経験にかかわらず助けあうことが肝心で、それにより新しい多くの刺激を得ることができる、ということに改めて思ったことでした。三つ目には、なんといっても知識を得ることは楽しい、ということです。今まで知らなかったことは多くあり、それらが出てくるたびに実は気恥ずかしい思いもします。それは自分がいかに知らないかを思い知る痛みです。そうした時に、質問すれば応えていただくことができ、あるいは話し合う仲間がいる、自分でも答えを求めて調べる、そういう場に自分を投入することができ、とてもうれしいです。学ぶチャンスを得たことに感謝しつつ、同期の方々と学びあい、自分を成長させていきたいと思っています。



平成27年度学位授与式が平成27年3月13日に行われました。学位授与式では、4年間看護学を学んだ学部生92名が看護学士の称号をいただき、それぞれの看護の道に進みました。また、看護学研究科修士課程を修了した7名の皆さんも更なる専門家としての道を進むべく巣だって行きました。みなさんおめでとうございます。



平成26年12月16日、卒業研究発表会が行われました。平成27年3月6日、大学院修士課程学位論文発表会が行われました。発表者は真剣なまなざしで発表し、それにこたえるように活発な質疑がなされました。学生一人ひとりが時間とエネルギーをかけて取り組んだ研究です。多くの方に聞いていただける貴重な機会でした。



ホア先生 講演会

国際交流委員会 山岸 まなほ

5月12日にホーチミン医科薬科大学の看護医療技術学部副学部長のリー・ティン・フーン・ホア先生を招いて、「ベトナムの看護教育」と題して講演会を開催しました。講演会には、100名を超える参加者があり、ベトナムにおける看護教育の現状と課題について理解を深めることができました。講演会の様子は、翌朝のNHKニュースにも取り上げられ、学生が記者のインタビューに答えている姿は微笑ましいものがありました。

ホア先生は、滞在中に本学学生の実習病院である新潟県立中央病院と国立病院機構さいがた医療センターを見学され、また本学教員と今後の具体的な研修プログラムについて話し合いを行いました。エボラ出血熱や中東呼吸器感染症(MERS)など世界的に流行する危険がある感染症が話題になっていますが、国際的視野で医療を考えることができる人材を育成できるよう、異文化交流も含め両大学間の交流を深めていくことを約束しました。



リレーマラソン 参加

今大会は晴天にも恵まれ絶好のマラソン日和でした。実際マラソンは想像以上に過酷なもので自分に託されるタスキもプレッシャーになり、初めはなかなか自分の走りができませんでした。しかし仲間や先輩からの励ましの言葉や応援はタスキがあるからこそ、とても心強く感じました。何よりもゴール前でアンカーを迎えチーム全員で42.195キロを完走できた達成感は今でも鮮明に覚えています。来年もまた参加したいです。



国宮越後丘陵公園リレーマラソンに、本学の学生1年生から4年生と教職員の有志が参加しました。

実習委員会では、5月27日(水)に、実習施設の実習指導者の皆様をお招きし、第9回看護学実習指導者研修会および平成27年度実習懇談会を開催しました。実習指導者研修会は、実習指導者と教員の連携を深め、実習指導を充実していくことをねらいとして行っており、今年度は「看護過程と実習記録」をテーマとしました。学内ではどのように看護の思考過程を学んでいるのか、実習での学びを記録する「実習記録」では、教員がどのような点に留意しながら指導を行っており、実習指導者にはどのような点をポイントに指導をいただきたいのかを教員がプレゼンテーションした後、実習指導者と教員で意見交換を行いました。また、引き続き行った実習懇談会では、大学側より昨年度の実習報告並びに今年度の実習計画の説明を行い、今年度の実習指導に向けた指導者・教員間での意見交換を行いました。

研修会後のアンケートからは、実習記録や学内での学習について理解が深まり、実習指導の参考になった様子が見られました。実習指導者と教員の連携を考えていくよい機会となりました。

実習指導者研修会・ 実習懇談会



新副理事長 紹介



副理事長 堀江 重雄



4月1日付けで副理事長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

出身地は埼玉県(坂戸市)ですが、青森(弘前市)、栃木(宇都宮市)、千葉市、東京、上越市、兵庫(加東市)、奈良(生駒市)、山口市での生活経験もあります。平成15年4月から3年間上越教育大学に勤務し、お米を筆頭に豊富な食材の美味しさに感動しました。平成16年中越地震、平成18年豪雪といった災害を経験した際の新潟県の方々の素晴らしい心温かさ、そして土地勘も少々あったことから、安心して2度目の上越生活を始めています。現在の自家用車も上越で購入、以来、都内、山口、生駒、宇都宮の転勤先でも長岡ナンバーのまま度々わりの里帰りとなりました。初めての単

身赴任でもあり、健康管理やメタボ等心配な点もありますが、日本屈指の高田公園の桜と蓮、海・川・山の大火火をはじめドライブ・ゴルフ等、上越界限や趣味も楽しみながら鋭気を養いたいと思っています。

私は事務職として、東大病院に就職して以来41年間、各地の国立大学等で勤務してきましたが、自作の「道を楽しむ」をモットーに、明るく前向きに仕事・趣味・生活を送る姿勢を継続することができました。これも同僚・先輩・後輩等から自分が知らない・見えないところで様々な応援をいただいたお陰と感謝しています。

看護大は、目的が明確でコンパクトでまとまりのある大学ですので、前向きな姿勢で、教職員個々人がアイデアを出し合い、信頼と助け合い・お互い様の寛容さをもって、組織的に業務・課題に取り組むことで、新潟県、上越地域への積極的貢献や本学の存在意義の一層の向上、そして本学の将来を創造していけるものと確信しています。

学生・教職員の皆さんとともに、看護大を大好きになって看護大の一員であることを自覚・自負し、本学の発展に微力を尽くすことを申し上げ就任の挨拶といたします。

新教員 紹介



看護管理学 教授 岩永 喜久子



はじめまして。この4月からこちらの大学に着任しました岩永喜久子と申します。よろしくお願いいたします。基礎看護学領域看護管理学分野で、4年生の専門ゼミナールⅠ・Ⅱと看護管理、大学院では看護管理学特論、看護教育学などを担当させていただいております。

これまでの経歴を簡単にご紹介いたします。私は、看護師として長年長崎大学病院に勤務後、教員として同大学の保健学科看護学専攻基礎看護学分野、群馬大学大学院保健学研究科基礎看護学分野では主に看護管理学を担当しました。両大学では基礎看護学の講義や演習、基礎実習、総合実習などで1年生から4年生へと成長する学生さんを見守り続けて参りました。実習先には、新卒の新人看護師さん、在学生たちの実習指導者、新

人教育担当者など、着実にキャリア形成されている姿がありました。さらに、卒業生も大学に戻って修士課程や博士課程で勉学を続けるようになりました。まさに、教育の循環があることを経験し、学生さんたちの成長の様子、医療人として社会に貢献し成長し続けられる姿を見せていただけることは教員として最高の喜びと感じています。

本学にも大学院に専門看護師コースがあり、またベトナムの大学や病院との交流が開始されます。専門看護師のような高度実践の看護やグローバルに世界中の保健・医療分野で活躍することも求められています。これまで米国の2つの大学やモンゴルの大学を訪問する機会をいただきました。看護を学ぶモンゴルの学生さんの姿勢、高度な看護実践が展開されている米国の様子から、看護に対する想いは世界中で同じだなと感じました。

最後になりましたが、この機会を得たことを大事にして、学生の皆様方と共に学ぶことを楽しみにしています。今年最初の冬をどう過ごすか、心配でもありわくわくした気持ちでもあります。立ち往生していたら、歩き方でも何でもいいです。是非、教えてください。どうぞよろしくお願いいたします。

看護管理学 准教授 山岸 まなほ



新潟県の基盤となる基礎看護教育機関である、新潟県立看護大学において資質の高い学生の教育に携わらせていただき、大変ありがとうございます。本学において、授業・委員会業務・担任意務などを通して、保健医療におけるリーダーを育成する一助になりたいと思っています。

私自身の学部生・看護師・大学院生時代に、多くの恩師・先輩方が最先端の教育と豊かな教育・研究環境を提供してくださったこと、教育職として就職後に、人間の尊厳・意思・生活を尊重し、リーダーシップと高い実践能力を持つ看護師・研究者・専門看護師の育成に参画させていただいたことに大変感謝しています。

私は看護師として12年勤務した後、教員になり今年が12年目になりました。東京都品川駅出身です。教員では広島駅、小田原駅などの新幹線の駅がある場所に勤務し、この度も上越妙高駅の開業と共に

着任し、縁を感じます。

看護師をめざす皆様：看護師は、家庭と両立しながらキャリアアップができ、一生続けられる魅力的な職業です。厚労省は2050年には現在150万名の看護師を200万名にする計画を実行中です。1親族に1名の看護師がいることで、健康管理・在宅医療が容易になります。また、厚労省は看護師の職域を、先進国を標準にさらに拡大する計画を実行中です。やりがいのある専門領域で、やりがいのある看護を提供できる環境が整いつつあります。

大学院をめざす皆様：看護師150万名の1/4は大卒以上となり、さらに保健医療を牽引するリーダーが必要となってきました。そのためには、高度実践看護師・大学教員・看護学研究者を育成する必要があります。ぜひ大学院をめざしてほしいと思っています。私の現在の研究テーマは、キャリア開発と人材育成に関する研究、保健医療従事者対象のEラーニング研修の効果評価、医療安全と質保証に関する方策の運用・活用に関する研究などです。

成人看護学助手 小林 麻美



はじめまして。4月より成人看護学領域で助手としてお世話になっております。また、本学大学院へも通うことになり、日々学習に励むこととなっております。

私は、本大学を一期生として卒業しました。卒業後は、新潟県立病院の看護師として今年3月まで勤務しておりました。柏崎市出身なのですが、上越での生活は10年を超え、この土地に愛着を感じるとともに、様々な出会いを通して上越の人柄の良さに救われ、温かさを感じてきました。臨床では、脳外科病棟へ配属後、手術室、救命センター、外科・内科の混合病棟や外来看護へも携わらせていただきました。異動があるため、一つ一つの知識や技術の深さは不十分な点もあるのですが、この体験を自身の強みとできるよう、本学での指導にあたりたいと考えております。学生の皆様には、臨床での実体験を伝えるとともに、学内演習して実習へと、臨床へのイメージへ少しずつでもつなげられるよ

うお手伝いしていければと思います。

また、私は看護師の新人教育を自身の研究テーマとしています。現在看護師の卵として勉学に励んでいる学生の皆さんが、どのような教育課程を経て医療の現場へ羽ばたいていっているのかを自身の目で見て感じ取るとともに、より現場での卒後教育の充実を目指し、人材の育成に取り組むことができるよう、学びを深めていきたいと考えます。学生の皆さんが、この学生生活を経て、将来それぞれの実践の場でどのような看護師に成長していくのか、今からとても楽しみに思っておりますし、その後の看護師人生において、学生の頃の体験が皆さんの看護観の基盤を形作れることを願い、サポートする側の責任もしっかり務めていきたいと思っております。

本学へ来たのは卒業して以来なので、校舎の懐かしさとともに、在学時お世話になった先生方もいらっしゃり、再びこのご縁があったことに深く感銘を受けております。教員としては初心者ですが、教職員の皆様の力を借り、協力しながら、学生の皆さんと一緒に学び成長していけたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。

精神看護学助手 安達 寛人



この4月に赴任してきました精神看護学助手の安達寛人です。私は新潟県立看護大学の第4期卒業生で、学生時代は上越で4年間を過ごしました。卒業後は、関東圏に就職し外科を3年間経験しその後は関西圏に移り精神科急性期を3年間看護師として臨床で経験を積んできました。学生時代のゼミも精神看護で、精神分野に興味があり精神看護学を専攻しました。

この上越の地に今度は教員という立場で大学に戻ってくるとは、卒業時は想像もしなかったことでした。(しかも学位卒業論文の指導教員の席に座るとは...)学生時代先生方には安達君と呼ばれていたの、学生や先生方、事務局の方々に、自分が先生と呼ばれていることに違和感が強かったのですが、それもようやく慣れて落ち着いてきました。(それでも安達君の方が自分としてはしっくりきます!)

面接で徐々に大学に赴き、大学の外観やホール、教室、研究室などの変わっていない様子を見て懐かしくなりました。また、その懐かしさから上越市内を車で散策もしました。新しい道や新幹線の駅ができて雰囲気も若干変わっていて、学生時代住んでいたのに南高田の方では道に迷ってしまいましたが、今ではしっかり思い出しています。学生時代4年間の思い出が上越にはあり、年月が経つのは早いと感慨深くなりました。

以前通っていた場所とはいえ立場も違い緊張して赴任してきましたが、学生時代にお世話になった先生方も、自分のことを覚えて下さっていたことにとても嬉しく思い、また実習先の部長さんや先輩・後輩の方も覚えて下さっていたことに驚いたとともに大学・上越に改めて温かく迎えてもらえたように感じました。まだ右も左もわからない状態ですが、とにかく一日も早く慣れるよう頑張りますので、ご指導のほどよろしく申し上げます!

教務係

こんにちは、教務係です。教務係では「大学の教務」に関する仕事を男性1名、女性6名で行っています。具体的には、授業準備、授業補助、時間割の管理、成績の管理などを行い、学生の皆さんが授業に集中し、修学できるようにサポートします。その他には、入学試験等の業務を行っています。大学内における授業に関する悩み事やご意見がありましたら、教務係までお声がけください。よろしくお願いします。



庶務係

庶務係は大学における日常の基本的な事務を担当しています。文書・荷物の集配、物品・設備の管理から、支払や学長秘書業務まで多岐にわたっています。大学が行う事業の土台をしっかりと守ることで間接的に学生の皆さんのお役に立ちたいと願っています。さて、4月から新採用職員の高崎達也さん(後列中央)が配属されました。北海道旭川市出身、日本サッカー協会公認コーチ資格を持ち、どんな仕事も常に全力疾走を心がけ奮闘中です。

図書学生係

図書学生係は、学割証、在学・成績証明書など各種証明書等の発行を行っています。また、授業料減免、奨学金貸与、国家試験、就職、自治会等団体活動など大学生活を送る上での様々な相談・支援を行っています。

図書館では、勉強に役立つ図書の選書・収蔵を行うと共に、利用者が保健・医療について知りたい情報がある場合は、図書館員が資料や情報源を提供するレファレンスサービスも行っています。



経営企画係

経営企画係は主に大学の経営方針や予算編成に関する業務を担当しています。学生と直接接する機会は少ないですが、学生が学ぶ環境をどのように整備していくかを考え、また、どのように地域に貢献していくかを考えながら、看護大学がさらに発展していくことを目指して日々奮闘しています。

事務局紹介





私は現在長野赤十字病院の集中治療室に勤務しています。毎日沢山の患者様が運ばれてきます。看護師業務が始まったとき、今まで実習で見てきた病棟からはかけ離れていて、まだ学生気分の私からすれば、ドラマの世界でした。ただドラマと違うことは、自分が看護師としてそこにいる、ということです。

集中治療室には様々な疾患の患者様が入院されます。今日、くも膜下出血の患者様を受け持ったと思ったら次の日には心筋梗塞の患者様を受け持つということはよくあります。さらに、患者様には生命維持のため人工呼吸器を始めとする沢山の器械が身体に繋がっており、疾患や処置・ケアについて学習の必要性を日々感じています。過酷な環境のようですが、集中治療室は基本的に日中は1対1看護です。初めはフォローしてくれる先輩も付いてくださるのでむしろ1対2の看護になります。重症な患者様は、処置も多く緊張の連続ですが、1人の患者様のことを朝から夕方まで先輩と検討・アセスメントし、看護ケアを考える。こういう贅沢な環境はここだからこそなんじゃないか、と思います。このような状況の中で少しずつ患者様・ご家族に関われる喜びや看護師としてのやりがいを感じるようになりました。

まだまだ仕事も先輩たちと同じようにできないし、周囲の皆さんの手を借りなければいけないことも多いですが、患者様から見れば同じ看護師です。自分のやることに患者様の命がかかっていると感じると、正直怖いし、背筋が伸びます。今後も、沢山の事を学び、この環境で学べることに感謝しながら成長していきたいと思っています。



1 継続課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
平澤 則子	在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究 (24~28年度)	基盤研究C
水口 陽子	看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発 (25~27年度)	基盤研究C
岡村 典子	中堅看護師の就業継続に向けた管理者向け支援習得プログラムとアウトカム指標の作成 (25~27年度)	基盤研究C
山田 正実	COPD患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援する教育プログラム (25~27年度)	基盤研究C
酒井 禎子	地方都市の高齢がん患者と家族の療養生活を支える「文化」を基盤とした看護モデル開発 (25~27年度)	基盤研究C
高島 葉子	助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「岐分」を意識した初期対応モデルの構築 (25~27年度)	基盤研究C
石田 和子	化学療法に伴う吃逆の統合支援マネジメントモデルの開発と有用性の検討 (26~28年度)	基盤研究C
高柳 智子	脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発 (26~29年度)	基盤研究C
高林 知佳子	介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題 (26~28年度)	基盤研究C
角山 裕美子	術後補助化学療法を受ける慢性疾患をもつ高齢がん患者のセルフケアに関する研究 (25~27年度)	若手研究B
渡邊 千春	EBPに基づいた終末期がん患者・家族への輸液療法意思決定支援ガイドの導入と評価 (26~28年度)	若手研究B
加賀美 亜矢子	認知症高齢者の排便状況に関連した行動心理症状を予防する施設ケアの検討 (24~27年度) ※延長承認	若手研究B

2 新規採択課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
境原 三津夫	性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築 (27~29年度)	基盤研究C
飯吉 令枝	豪雪地域の高齢者が自立した栄養・食生活行動を維持するためのサポートシステムの構築 (27~29年度)	基盤研究C
徐 淑子	ハームリダクション時代の依存症ケア：日蘭の文化的差異をふまえた国際比較研究 (27~29年度)	萌芽研究
北村 千章	22q11.2欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築 (27~29年度)	萌芽研究
谷内田 潤子	新規糖尿病患者の未治療抑制に向けた糖尿病療養指導士による健診事後指導効果の検証 (27~29年度)	若手研究B



新潟県立看護大学が「どんな大学か?」を知りたい皆さんのために、オープンキャンパスを開催します。

例年、体験講義・演習や学長・在学生との懇談など、多彩なプログラムで実際に見て、聞いて、触れて、体験していただく内容となっています。

受験を間近に控えた高校3年生はもとより、社会人入学をお考えの方、保護者の方、看護系大学へ将来進学を考えている高校1・2年生も大歓迎です。是非ご参加ください。

開催日時	1回目:平成27年8月7日(金) 11:00~16:00 2回目:平成27年8月20日(木) 11:00~16:00
開催内容	①大学・入試概要等の説明 ②学長室訪問・在学生との懇談 ③体験授業 ④施設案内 ⑤個別相談(教員、学生、奨学金担当) ⑥学食体験
申込方法	大学ホームページをご覧ください。
問い合わせ先	教務学生課教務係 電話:025-526-2811 E-mail:kyoumu@niigata-cn.ac.jp

※詳細は大学ホームページ(<http://www.niigata-cn.ac.jp/>)をご覧ください。



地域の皆様が気楽に集い、お茶を飲みながら健康について学ぶことを目指す「いきいきサロン」も7年目を迎え、今年度の第1回目は5月21日(木)に開催されました。「腰痛を予防するには?」のテーマで、新潟労災病院中央リハビリテーション部理学療法士の澤田小夜子先生と作業療法士の稲垣利重子先生にお話しいただきました。当日は132名の多くの方達にご参加いただき、腰部の仕組や腰痛予防をわかりやすく教えていただき、和やかな雰囲気の中で音楽に合わせて簡単な運動を行いました。

8月以降のいきいきサロンは、以下のような日程になっています。皆様も日々をいきいきと過ごすためのヒントを得るために是非お越し下さい。



日時	テーマ	講師
9月17日(木) 18:30~19:30	日本人が食べてきた食事 「和食の良い所、悪い所を見直す」	上越地域医療センター病院 栄養室長 水沢 麻奈美 先生
10月29日(木) 18:30~19:30	最新の眼科医療で高齢者の眼病に立ち向かう	石田眼科医院 院長 石田 誠夫 先生
11月19日(木) 18:30~19:30	介護予防は生活習慣病予防から	上越市役所 保健師 細谷 早苗 先生



公立大学法人
新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing



今回の27号から、ポルティコの広場編集担当者が変更となりました。編集担当者が2名体制となり、さらに充実した内容で皆様にお届けできるよう頑張っていきたいと思っております。学生達や教職員、そして地域の皆様とともに新潟県立看護大学がいかされ、発展していく様子をお伝えできればと考えております。よろしくお願いたします。

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

入試・広報委員：天谷まり子 川島良子

